

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.71

発行所 一般社団法人 日本助産学会  
〒170-0004

東京都豊島区北大塚 3-21-10

アーバン大塚 3 階 株式会社ガリレオ

学会業務情報センター内

TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364

E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

代表者 江藤 宏美

一般社団法人  
日本助産学会ニュースレター

巻頭言

## 第 28 回日本助産学会学術集会

安全・安心・継続性～女性と家族の未来を長崎から発信する～

第28回日本助産学会学術集会会長 江藤 宏美(長崎大学)

薫風が力強く、新しい息吹を運んでくれます。金沢での第 27 回の学術集会が盛会のうちに幕を閉じ、次の学会の始動です。第 28 回日本助産学会学術集会は、歴史の街、長崎で開催します。

日 時 : 2014年3月21日[金] プレコンgress

3月22日[土]～23日[日] 学術集会

会 場 : 長崎ブリックホール

懇親会 : グラバー園 (3月22日[土])

メインテーマは、「安全・安心・継続性～女性と家族の未来を長崎から発信する～」です。テーマに込めた思いは、安全神話が崩壊していく中で、助産において最も大切な安全、安心はどのようにして得たいのか、そして、得られた安全、安心を継続していくにはどうしたらいいのか、みんなで知恵をしぼり、考えていく学会にしたいと思っています。そのためには、助産師だけでなく、女性たちとの協働が必要になってくると考えています。今回、助産師とパートナーシップを築く女性たちを学会に招待して、助産師の活動を知って、活動に協力していただけるような新しい試みを企画しています。「トリプル・エス(安全 Safe、安心 Secure、継続性 Sustainability)」を、みんなで考えていきましょう！

今回、学術集会を開催する長崎は、日本初の産科女医である楠本イネを生み出した街であり、16 世紀に日本で唯一外国に開かれていた街、早くから国際性にめざめ新しい文化を柔軟に吸収してきた街でもあります。特別講演では、助産師という職業が、歴史の中でどのように位置づけられ、どのような役割をとってきたか、今一度、歴史をひも解き、今後の発展の道しるべとなるきっかけをつかめたらと考えています。

また、歴史の中でいくつもの異なった海外の文化や慣習、知識がうまく融合された長崎の魅力に、是非、触れていただきたいと思います。かつての長崎のように、みなさんが交流し、多くの意見を交わし、違った意見をうまく統合できるような場になればと思います。助産師が専門職(プロフェッション)として、生き生きと活躍できるようになるために、助産師がエンパワーされるための談論風発となるような学会にできればと考えています。助産に関する研究と教育と実践を、仲間たちとあつく語り合しましょう！

今回は3月開催です。たくさんの方の研究や実践の成果発表をお待ちしています。多くの助産師、助産学生のみなさん、女性たちと長崎でお会いできることを、こころより楽しみにしております。

## 平成 24 年度一般社団法人日本助産学会 第 3 回学会総会

庶務担当理事 片岡 弥恵子

日時 : 平成 25 年 5 月 1 日 (水) 13 時 30 分～

14 時 30 分

会場 : 金沢歌劇座 第 1 会場 2 階ホール

(金沢市下本多町 6 番丁 27 番地)

議長 : 第 27 回学術集会会長 島田啓子

## 【資料】

第3回一般社団法人日本助産学会 社員総会  
要綱第3回一般社団法人日本助産学会 学会総会  
プログラム

#### 開会挨拶

- ・開会に際し、江藤理事長より開会の挨拶があった。

#### <報告事項> (資料：一般社団法人日本助産学会 第3回社員総会要綱)

1. 理事会・社員総会報告
  - ・安達副理事長より平成24年度の理事会活動報告があり、併せて前日に開催された社員総会の報告があった。
2. 平成24年度事業報告
  - ・安達副理事長より、平成24年度の実業報告があった。
3. 第27回学術集会準備状況報告
  - ・島田学術集会会長より、第27回学術集会準備・開催状況の報告があった。
4. 平成24年度収支決算報告
  - ・安達副理事長より、平成24年度の収支決算について報告された。
5. 監査報告
  - ・青木監事より、平成24年度収支決算に係る監査報告があり、当該年度決算報告については適正に処理されている旨、報告があった。

#### <会員発言>

会員より、平成24年度収支決算報告において、

前年の実績と大きく異同がある点について質問があり、江藤理事長より法人化の影響もあり、まだ各年度の変動が大きいこと、予算の組み替えも行なっていることなどが説明され、今後は安定へ向かっていく見込みであるとの見解が示された。

#### 6. 定款の改定について

- ・中込理事より、前日の社員総会で定款の改定を行ったことが報告された。内容としては、誤字の修正と学術集会会長の任期を「1年」から「学術集会終了まで」という規定に改めた点である。

#### 7. 平成25年度事業計画案

- ・江藤理事長より平成25年度事業計画について報告があった。

#### 8. 平成25年度収支予算案

- ・安達副理事長より平成25年度収支予算案について報告された。

#### 9. 次々期第29回学術集会会長について

- ・次々期第29回学術集会会長について、昨日の社員総会で島田真理恵氏(上智大学)が選任されたことが報告された。  
(平成24年度学会賞表彰式)

#### 10. 次期第28回学術集会会長 挨拶

- ・次期第28回学術集会会長 江藤宏美氏より、長崎県長崎市で平成26年3月22日～23日の日程で開催される旨、報告があった。

### 平成24年度一般社団法人日本助産学会 学会賞表彰者

表彰関連委員会 森 明子

#### 功 勞 賞 近 藤 潤 子

##### <表彰理由>

近藤潤子氏は助産師の自律が難渋を極めた時代に渾身の力を注いで1987年の日本助産学会設立に尽力し、初代理事長とられました。同時に学術集会会長として第1回日本助産学会学術集会を開催されました。1987年(第1期)から2008年(第7期)まで評議員として、1987年(第1期)から2012年(第8期)まで理事として、1987年(第1期)から2002年(第5期)までは理事長として26年間に渡り学会の発展に向けてご活躍し貢献されました。2011年日本助産学会の一般社団法人化は学会の成長を支え見守りつつ基盤づくりをされた成果であり、2012年(第9期)からは代議員として、ご尽力いただいております。

さらに近藤氏は国際助産師連盟第22回大会の日本での開催年1990年から2008年まで国際助産師連盟の評議員を7期、2000年から2009年まで同連盟役員としてアジア太平洋地域代表を9年間お勤めに

なり、助産師職能の質向上と活動充実のため国際的にも精力的にご活躍されました。欧米、アフリカ、豪州など全世界そしてアジア地域に対する日本の助産の知名度を高め、実践家や研究者間のネットワークを広げることに貢献されました。その結果、まさに日本の助産のグローバルな学術的発展の礎が築かれたと高く評価されております。

#### 学 術 賞 白 石 三 恵

##### <表彰理由>

白石三恵氏は2012年東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程にて博士の学位を取得され、現在、東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻母性看護学・助産学分野助教としてご活躍です。これまで一貫して「妊娠期の栄養」をテーマとし、日本人妊婦の食習慣や栄養素摂取状況が妊娠合併症や胎児成長と関連する生化学

的指標に与える影響についての研究に取り組んできました。

今回の学術賞の論文は「Relationship between the plasma total homocysteine levels and skipping breakfast during pregnancy」で朝食を週二回以上抜く習慣と日本人妊婦254人の血清中の葉酸値、ビタミンB<sub>12</sub>、ホモシステインの値との関係を多重回帰分析で調べた研究でした。朝食を抜かなかった妊婦と比べ、抜いた妊婦のホモシステイン値は有意に高く、一方、葉酸値とビタミンB<sub>12</sub>値には差はありませんでした。同時に妊娠週数や妊娠中の喫煙、カフェイン摂取、身体活動量の交絡因子を調整したところ、ホモシステイン値と、朝食を抜く習慣、葉酸値、ビタミンB<sub>12</sub>値に関係があることがわかりました。結果からホモシステイン値を上昇させないためには妊婦の朝食摂取状況をきちんと把握する必要があることがわかりました。このように学術的価値と臨床応用にも優れ、助産学の発展に寄与することが高く評価されました。

### 奨励賞 中川朝美

<表彰理由>

中川朝美氏は諏訪中央病院小児婦人科病棟に助産師としてご勤務後、出張助産師として「NCAP (Nakagawa Childbirth Assistant Program)普及事業本部」を開業されました。東京や東海地方などの周

産期救急救命士養成校・大学で周産期救急の講師を務めておられます。2013年4月から東京都助産師会館母子研修センター助産師学校の専任教員としてご勤務されています。2007年国士舘大学大学院救急システム研究科修士課程を修了。現在は岩手大学大学院研究科環境システム工学専攻博士課程に在籍し、救急救命士、助産師、看護師などの医療従事者の抱える心身ストレス研究を行っております。

産科救急には頻度が少ないながらも救急救命士や救急隊員が分娩に関連した救急事例が含まれているため、病院到着前の分娩介助・産科救急の生涯教育が必要だと考え、救急隊員のための病院到着前の分娩介助教育プログラム(NCAP)を助産師、救急救命士、医師の多職種で立ち上げました。2009年から開始した本教育プログラムは実践的な技術の習得を目指し救急隊員が実施可能な分娩時の応急処置を考慮しています。2013年2月までに約400名がこのプログラムを受講しています。これらの成果は3年連続で本学会にて発表されています。助産師のもつ技術の中から厳選された処置を含む行為を他職種に効果的に伝えるための教育をプログラム化することによって教育を推進しています。母子の命を救い健康を守るという多大な社会貢献が高く評価されました。

## 平成25年度一般社団法人日本助産学会 学会賞候補者の自薦または他薦の公募

表彰関連委員会 森 明子

一般社団法人日本助産学会では会則67条第1項、第2項に則り、本学会の発展、あるいは学術領域において優れた業績があったと認められる学会員の表彰を行っております。学会賞として、次の表彰に該当されると思われる方は是非ご推薦下さい。

### 学会賞の種類及び資格、審査対象

#### 1. 日本助産学会学術賞(以下、学術賞)

資格:5年以上の日本助産学会の会員であること。

審査対象:

助産学に関連する一連の研究に対し3篇以上の原著論文を有し、且つこの中の1篇以上は、推薦年度を含む過去3年間に日本助産学会誌に発表していること。

#### 2. 日本助産学会奨励賞(以下、奨励賞)

資格:3年以上の日本助産学会の会員であること。助産実践者として活動歴が10年以上あり、助産実践の向上や開発に貢献していること。

審査対象:

応募年度を含む過去3年間に本学会に発表した

助産実践者で、実践向上や技術開発への貢献が認められる者。

### 公募について

学術賞及び奨励賞は、会則第67条1項に定める受賞資格を有する者の自薦、又は本会員の推薦とする。

### 受賞者数

上記各賞とも若干名

### 応募方法

各応募申請書及び申請書フォーマットは、日本助産学会ホームページに提示する。

### 推薦応募書類

<学術賞>

- |                     |    |
|---------------------|----|
| ①応募申請書(様式1)         | 6通 |
| ②業績の概要(200字以内)(様式2) | 6通 |
| ③申請論文3篇の別刷り又はコピー    | 6通 |
| ④推薦書:他薦の場合のみ(様式3)   | 6通 |

<奨励賞>

- |                     |    |
|---------------------|----|
| ①応募申請書(様式1)         | 6通 |
| ②業績の概要(200字以内)(様式2) | 6通 |

- ③本会で発表した抄録又は論文  
1篇の別刷り又はコピー 6通
- ④推薦書:他薦の場合のみ(様式3) 6通

各候補者の推薦応募は、上記の書類を添えて日本助産学会事務局に「推薦書類」と朱書きにして送付して下さい。

推薦応募締め切り 平成 25 年 8 月末日

## 2014年度 日本助産学会 研究助成公募

学術振興委員会 葉久 真理

応募締切日:2013年11月8日(金)必着

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2014(平成 26)年度の研究助成申請は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願いいたします。

### 応募資格

日本助産学会員として2年以上加入している会員であること

研究分担者は会員であること(加入年数は問わない)

### 申請書の請求

日本助産学会ホームページ  
(<http://square.umin.ac.jp/jam/>)「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛にご請求ください。

### 研究課題

従来、委託研究と学術奨励研究について公募(それぞれ2件程度採択)しておりましたが、2013 年度から、学術奨励研究のみ公募し、3件程度採択することとなりました。

### 学術奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。助成額は、30 万円以内/1件。

### 助成者の決定および通知

助産学会理事会で審議、採否決定後、主研究者に通知します。

### 応募に関する留意点

申請書は、楷書(パソコン等での作成を推奨)でご記入ください。

申請書並びに別刷り、参考資料等の提出にしましては、ホームページの助成実施要項をよくご確認ください。

提出された申請書は返却しませんので予めご了承ください。

最終に提出された報告書は、原則として日本助産学会のホームページに掲載する予定です。

### 問合せ先

(株)ガリレオ 学会業務情報センター内一般社団法人日本助産学会事務局  
〒170-0004 東京都豊島区北大塚 3-21-10 アーバン大塚 3 階  
TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364  
E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp  
多数の方の応募をお待ちしています!

## 第 30 回 ICM (国際助産師連盟) ICM 30<sup>th</sup> Triennial Congress のお知らせ

国際委員会 大石 和代

第 30 回 ICM 大会が、2014 年 6 月 1 日～6 月 5 日に、チェコ共和国のプラハにて開催されます。主催団体はチェコ助産師会で、会長は Vera Vranova 氏です。大会のテーマは、「Midwives : Improving Women's Health Globally (助産師:世界中の女性の健康を改善する)」です。

今回は、次の 4 つのサブテーマに沿って演題が募集されています。

1. Bridging midwifery and women's health rights (助産術と女性の健康権利をつなぐ)
2. Access : bridging the gap to improving care and outcomes for women and their families (アクセス:ケアの向上と女性および家族のための結果改善に向けて溝を埋める)
3. Education : the bridge to midwifery and women's autonomy (教育:助産術と女性の自律とのかけはし)

4. Midwifery : bridging culture and practice (助産術:文化と実践をつなぐ)

※演題提出は2013年4月5日に締め切られました。  
参加希望の方はお早めに大会ホームページから登録して下さい。尚、期日別の登録料金は下記になっています。

**大会ホームページ**  
**www.midwives2014.org**

登録カテゴリー	期日		
期日	2013.6.30 まで	2014.2.21 まで	2014.5.9 まで
全日程参加	519 €	579 €	689 €
学生	169 €	265 €	315 €
同伴者	126 €	136 €	136 €

2013年5月5日 国際助産師の日

1990年のICM神戸大会で、5月5日が「国際助産師の日」と制定されることになりました。世界中の助産師が、助産師と助産師の仕事をもっと多くの人に知ってもらうために設けました。

今年のテーマは、「いまだかつてなかったほど、世界は助産師を必要としている」です。2013年の日本のポスターは右です。



**ICM募金の御礼と継続支援のお願い** 一般社団法人日本助産学会事務局

本学会は、ICM支援のための募金を常時受付けております。皆様方の暖かいご支援とご協力をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆**  
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。  
一口 2,000円  
振替口座番号:00190-8-710931  
加入者名:日本助産学会国際基金

**★ ICMセーフマザーフッド基金 ★**  
世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。一口 1,000円  
振替口座番号:00240-8-6818  
加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

**事務局からのお知らせ**

**今年度平成25年度会費(10,000円)納入について**

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願い申し上げます。なお、今年度は代議員および理事・監事の選挙の年です。6月末までの会費納入者が選挙人対象者となりますのでご了承ください。また、平成24年度の会費納入がまだお済でない方は平成25年度分と合わせて、早急にお振込み下さい。

- ・郵便振込：00120-2-763540 加入者名：一般社団法人日本助産学会  
通信欄に会員番号と納入年度を明記
- ・銀行振込：ゆうちょ銀行(9900) 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)(当座) 0763540  
一般社団法人日本助産学会  
(シヤ)ニホンゾウサンガクカイ 氏名と会員番号を通知

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落と

しへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先に E-mail か FAX でご連絡ください。

学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意下さい。

なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールか FAX でご請求ください。会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

#### 変更届について

住所等の変更手続きに関してはオンライン会員情報管理システムか書面で、そのつど速やかにお手続きして下さい。

- ・オンライン会員情報管理システム（詳細は下記）ご利用の場合  
オンライン会員情報管理システム：<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM> から ID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問合せ下さい。
- ・オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合  
変更届の書式は問いませんが必ず書面（E-mail・FAX・はがき等）に明記してお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。学会誌等送付にはクロネコメール便を利用しますので、郵便局へ転送届けを出していても届かない場合があります。変更届は必ずご提出ください。また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、ポスト表示も合わせてよろしくお願ひします。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

#### 退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

\*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意いただきたいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願ひ申し上げます。

#### 学会誌バックナンバー販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～25巻は2,500円、26巻は3,500円(各1部)で、送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願ひします。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛に E-mail 添付送信するか、FAX して下さい。

《連絡先》 一般社団法人日本助産学会事務局  
〒170-0004  
東京都豊島区北大塚 3-21-10 アーバン大塚 3F  
株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内  
TEL:03-5974-5310 FAX:03-5907-6364  
E-mail: [g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp)  
ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。